

衛星関連ニュース

インテルサット、インテルサット27衛星の組み立てを開始、政府ユーザーのために UHF ペイロードを搭載。

ルクセンブルク、2010年8月16日

インテルサット S.A.(静止衛星サービスの世界一のプロバイダー)は、インテルサット 27 衛星(IS-27)の組み立てを開始したことを今日発表した。IS-27 はメディアとネットワークの顧客に C と Ku 波帯のハイブリッド構成の設計で、政府アプリケーションのために 20x25kHz チャンネルの UHF ペイロードが増強される。IS-27 は、2012 年 12 月までに打ち上げられる予定で、インテルサット 805 衛星の置換として大西洋地域に置かれる。

IS-27 の UHF 帯ホステッドペイロードは、既存の UHF フォローオン衛星(UFO)と将来のマルチユーザー目的システム(MUOS)衛星を補完する機能を提供する。ペイロードは DAMA と IW 運用をサポートし、デジタル的に調整が可能で、既存のターミナルと完全に相互運用できる。

「インテルサットは海事通信衛星と LEASAT プログラム以来、商業用の UHF サービスを国防総省(米国国防総省)と関係者に提供してきている。このペイロードはその伝統を受け継いでいて、オーストラリア防衛軍との我々の現在のプログラム踏まえている」とドン・ブラウン(インテルサットジェネラルホステッドペイロード社の副社長)は述べている。「IS-27UHF ペイロードは海軍の UFO-11 衛星と機能的に等しくなるであろう」。

2010 年 3 月に、海軍は UHF 増強計画を議会に提出した。商業的 UHF ホステッドペイロードは、UHF 機能における不足を緩和するための解決策の 1 であった。2010 年 5 月 10 日に、SPAWAR は UHF 増強の解決策を要求する情報提供依頼通知を産業界に発出した。

「このペイロードで私達が意図している顧客は NATO と他の同盟国のほか、海軍と米国国防総省の戦術的なユーザーである」とケイ・シアーズ(インテルサットジェネラル社の社長)は述べた。「情報提供の中で概説されている要求は私達のペイロードデザインプロセスの第一線に相当するものであった。インテルサットのペイロードは、warfighter 通信を支えるために重要な時間と場所に到着するであろう。」

シアーズは、「私達は軍隊のコントロールと自律性の必要性を理解しており、この UHF ペイロードのためにさまざまな異なる契約上のオプションを私達の顧客に提供することを計画している」と続けた。

インテルサットは今月初め IS-27 の製造のためにボーイングスペースアンドインテリジェンスシステム社との協定にサインした。インテルサットは、2012 年の打上日を守るために UHF ホステッドペイロードの長期にわたる組み立てを 2010 年の第 2 四半期に開始することをボーイング社に認可した。

ーインテルサット 2010.8.16 プレスリリース記事ー

ボーイングとボールエアロスペース社、SBSS 衛星の打ち上げ準備が整ったと発表

2010 年 9 月 21 日

エルセグンド、カルフォルニア。ーボーイング社とチームペートであるボールエアロスペーステクノロジー社は、本日宇宙配備宇宙監視衛星 (SBSS) とその地上システムの最終試験が完了したと発表した。衛星は、9 月 25 日にカルフォルニアロムポックにあるバンデンバーグ空軍基地から打ち上げられる予定である。

一旦起動に投入されれば、SBSS は米国の宇宙状況認識の精度と瞬時性がドラマチックに改善されるであろう。この衛星は、気候、大気状況や観測時刻の制限なしにデブリ、衛星や他の宇宙物体を探知観測することのできる米空軍にとって唯一の宇宙配備センサーとなる。

「日に日に、わが国の価値ある衛星や宇宙プラットフォームに対する脅威は拡大している。」米国空軍宇宙ミサイルシステムセンターの宇宙優位性システム軍団の J. R. ジョーダン大佐は述べている。「SBSS は、我々の安全、通信、気象予報や他の多くの基本的なサービスが依存している宇宙配備設備に危害を与える物体の検出と監視のための我々の能力を変革するであろう。」

「ジンバル搭載カメラ、再プログラム可能な搭載プロセッサとオープン地上システムアーキテクチャにより、SBSS は今日の変化するミッション要求に即応するとともに明日の脅威に合わせて適合することができる。」とクレイグ クーニング ボーイングスペースアンドインテリジェンスシステムの副社長兼総支配人が述べた。

ボールエアロスペースを含むボーイングチームは、空軍の詳細設計審査後 3 年以下で革新的な SBSS システムを納入した。5 月には、衛星は、コロラドのボルダーにあるボールエアロスペースの工場からバンデンバーグ空軍基地に搬入された。以来、SBSS チームは、バンデンバーグ空軍基地の打上チームとコロラドのシュリーバ空軍基地にある SBSS 衛星運用センターのミッション運用チームとともに、3 回の完全な打上カウアウトダウンリハーサルを実施した。空軍とボーイングチームは 6 月に最終ミッション運用リハーサルを終了した。

「ボール社は、宇宙状況監視の生産性と全体の柔軟性を改善する計画に寄与できて光栄です。」
デービッド・L・テイラー ボールエアロスペース社 CEO 兼社長が述べている。「SBSS は、空軍が米
国の宇宙配備設備に脅威を与える可能性のある展開に目を光らせるための重要なコンポーネン
トであります。」

「SBSS チームは、9 月 25 日にゴーの準備ができています。」と ボーイングアドバンスドスペース
アンドインテリジェンスシステムのトッド シトロトン部長が述べている。「我々は全ての計画と進行を
完全にリハーサルしており、衛星運用センターは、飛行運用体制に入っており、SBSS 衛星とミノ
ールロケットは最終準備段階を終了しようとしている。我々は、この衛星をその活氣的ミッションを
完遂するよう軌道に投入することを待ち望んでいるところです。」

ボーイング社は、全体のプログラムマネージメント、システムエンジニアリング、インテグレーション、
衛星運用センターの設計と開発とシステム運用とメンテナンスのすべてに責任を持っている。ボー
ルエアロスペースは、ボーイングの製造した搭載ミッションデータ処理装置を用いて、衛星を設計、
開発、製造、組上げ及び試験を実施した。

—ボールエアロスペース 2010.9.21 プレスリリース記事—